



一般社団法人日本バッハ協会 会長 高野 昭夫
音楽監督 寺神戸 亮
グローバルユースビューロー 代表取締役社長 柴崎 聡

心を打つメロディーをとどけたい

一般社団法人日本バッハ協会の会長、高野昭夫はドイツ・ライプツィヒ市にあるバッハ研究の総本山・バッハ資料財団の広報担当を20年以上務めています。

グローバルとの出会いは20年前にライプツィヒのトーマス教会でグローバルが実施した天満敦子氏のヴァイオリン演奏でした。高野と柴崎で企画をし、バッハの生誕地であるアイゼナッハの世界遺産ヴァルトブルク城での演奏が実現しました。その演奏風景は、当時NHK衛星放送で日本のニュースとして生配信されました。

「バッハの音楽は愛好家だけのものじゃない。心を打つメロディーを多くの人に届けたい」その思いで社団法人を設立し、昨年からはグローバルが事務局を担当しています。

高野は生まれ故郷富山を拠点に、バッハを専門とする小編成のオーケストラ富山バッハ管弦楽団を創設し、音楽監督にベルギー在住のヴァイオリニスト寺神戸亮氏を迎えて活動をはじめました。

今回は日本バッハ協会とグローバルが共催し、バロック音楽を楽しんでいただくプログラムをお届けします。日本バッハ協会は音楽関係者だけでなく、広く一般の方々に会員になっていただきコンサート会場に足を運んでいただきたいと願っています。是非この機会にご入会をいただきたくお待ち申し上げます。

(裏面のQRコードよりご入会登録が出来ます)

第103回 グローバルクラシックコンサート

103rd Global Classical Concert

楽しいバロック音楽 ～バッハと共に～



ライプツィヒ 聖トーマス教会とバッハ像

2024年10月22日 (火) 紀尾井ホール

主催

GLOBAL 株式会社 グローバルユースビューロー
Since 1966
一般社団法人 日本バッハ協会

協賛

SILVERSEA

協力

JAPAN AIRLINES
メルセデス・ベンツ日本合同会社

後援

ドイツと日本
Zukunft gestalten
ともに築きあげ
ドイツ連邦共和国大使館



世界遺産 ヴァルトブルク城



ライプツィヒでの柴崎と高野(20年前)



ゲヴァントハウス記者会見(2023年)

ご挨拶



©Bach-Archiv Leipzig/Gerd Mothes

バッハ・資料財団は1950年に設立され、バッハの直筆譜、筆者譜、そして関連する神学的な書物、例えばバッハが持っていた聖書やヴァイマル、ライプツィヒの讚美歌集など、バッハの生涯における資料を保管・管理しており、そして一昨年には新しいバッハの作品目録を作り上げた研究機関です。今から3年前に私の同僚が日本で一般社団法人日本バッハ協会を立ち上げヨーロッパと日本の距離を縮めようと動いてくれていることは我々にとってとても嬉しいことです。今後、我々の研究によってまた新たなバッハの側面が見えてくると思います。私の同僚と一般社団法人日本バッハ協会のますますの活躍をバッハ終焉の街、ライプツィヒから心より願っております。

ライプツィヒ・バッハ資料財団
最高責任者 ペーター・ヴォルニー博士



撮影：安井 信

皆様、今日は我々富山バッハ管弦楽団の音楽会にお越しくださり、心から嬉しく思います。私は24年間バッハ終焉の街であるライプツィヒに住み、バッハの素晴らしさを広める仕事をさせていただいております。ライプツィヒではバッハの音楽の原点が教会、家庭、人々の生活、そしてあるときは宮廷だったということを現地で身をもって学びました。ですので、本来バッハの音楽は現代の日本のように演奏会場で行われることはなかったのです。なぜならバッハが生きていた頃、演奏会場はなかったからです。現代はどうしてもクラシック音楽というと特別に感じるかもしれませんが、本来は演奏者は皆様と同じ視線で奏でるのが通常でした。本日は壇上での演奏となりますがバッハの音楽を皆様の生活の中の楽しみとして、そして慰めとしていただければこれに勝る喜びはございません。本日の演奏をどうぞお楽しみください。

一般社団法人 日本バッハ協会
会長 高野 昭夫



「グローバル クラシックコンサート」はお陰様で今回103回目を迎えることができました。多くのお客様に支えられ、国内外の音楽家の皆様のお力添えによりコンサート活動ができておりますことを感謝申し上げます。旅と音楽をテーマに活動をしている弊社は、20数年前、ドイツ・ライプツィヒのバッハ資料財団のご協力によりバッハが活躍したトーマス教会やニコライ教会での演奏を実現することができました。以来、ヨーロッパでの音楽活動にお力添えをいただいております。これからは、同協会の日本事務局として、バッハをはじめとするバロック音楽文化の紹介活動を通してご恩返しができればと願っております。

株式会社 グローバル ユース ビューロー 代表取締役社長
一般社団法人 日本バッハ協会 理事
柴崎 聡

プログラム

【J.S.バッハ】

管弦楽組曲第2番 BWV1067

～ 名曲コーナー ～

管弦楽組曲第3番 BWV1068 より アリア (G 線上のアリア)
チェンバロ協奏曲第5番 BWV1056より 第2楽章(アリオソ)
無伴奏ヴァイオリンパルティータ第3番 BWV1006 より ガヴォット
フルートソナタ BWV1021より シチリアーノ

無伴奏チェロ組曲第1番 BWV1007より プレリュード

休憩

ヴァイオリン協奏曲第1番 BWV1041

ブランデンブルク協奏曲第5番 BWV1050

※曲目、曲順は都合により変更する場合があります。

富山バッハ管弦楽団 プロフィール

寺神戸 亮 Ryo Terakado ヴァイオリン・音楽監督



1961年ボリビア生まれ。桐朋学園大学に学び、ヴァイオリンを久保田良作氏に師事。在学中1983年に日本音楽コンクール第3位入賞、1984年同大学を首席で卒業すると同時に、東京フィルハーモニー交響楽団にコンサートマスターとして当時最年少にして入団。その後オランダに留学、シギスヴァルト・クイケンの下、古楽の研鑽を積む。現在、デン・ハーグ王立音楽院、ブリュッセル王立音楽院で後進の指導にあたっているほか、ウルビーノ古楽音楽祭や韓国延世大学などに定期的に招かれ、マスタークラスやオーケストラの指導などを行っている。2007年より桐朋学園大学特任教授。ブリュッセル在住。レコード受賞歴：1996年レコード・アカデミー賞2000年レコード・アカデミー芸術祭優秀作品賞/2008年レコード・アカデミー(器楽部門)賞/2011年文化庁芸術祭レコード部門優秀賞/2015年東燃ゼネラル音楽賞(現在のENEOS音楽賞)本賞受賞。

大内山 薫 Kaoru Uchiyama ヴァイオリン



©S_Kida

京都市立芸術大学を経て同大学院を首席修了。大学院賞受賞。博士課程にて学び、その後古楽の研鑽を深めるために渡欧。デンハーグ王立音楽院古楽科にて寺神戸亮氏に師事しディプロマを取得する。仏シャンゼリゼ管弦楽団より2年連続で奨学金を受け古楽音楽祭Festival de Saintesに参加。

帰国後は関西を拠点とし、コンサート、録音、オペラ、古楽音楽祭に多数出演。KANSAI BAROQUEコンサートマスター。

野橋 海有 Miyu Nohashi ヴァイオリン



5歳よりヴァイオリンを始める。始めた頃より古楽に興味を持ち、大学入学後、バロック・ヴァイオリンを寺神戸亮、戸田薫両氏の下で始める。現在桐朋学園大学音楽学部4年に、ヴァイオリン専攻/バロック・ヴァイオリン副専攻として在籍。ヴァイオリンを久保田巧氏に、バロック・ヴァイオリンを寺神戸亮、丸山詔の両氏に師事。二期会ニューウェーブ・オペラ劇場”デイダミア”、La Musica Collanaなどの公演に出演。2023、24年、Fabio Bonizzoni率いるLa Risonanza主催セミナー(EMSA)修了。

中田 美穂 Miho Nakata ヴィオラ



相愛大学音楽学部卒業。Vnを西村順吉、田川佐麻里、小栗まち絵の各氏に師事。卒業後、Vlaに転向し、森悠子、Aki Saulier、成田寛の各氏の元でヴィオラ及び室内楽の研鑽を積む。国内外の数々の音楽祭・演奏会に出演。2003年より長岡京室内アンサンブルのVla奏者として数々の演奏会・録音に参加。ヴィオラスペース2016に出演。また、オリジナルVla奏者として、オルケストル・アヴァンギャルド、弦楽四重奏団「Just our two cents」「Quartet Noon」他で活躍。モダンVla奏者として、東京バロックプレイヤーズ、弦楽四重奏シリーズ「羽糸で紡ぐ十六弦」他で活動の幅を拡げている。

島根 朋史 Tomofumi Shimane チェロ



音楽博士。古今のチェロ/ヴィオラ・ダ・ガンバを操る「三刀流奏者」。昭和音楽大学講師。一般財団法人日本弦楽指導者協会会員。東京芸術大学にて博士号(音楽・チェロ)取得。研究は17世紀のヴィオラ・ダ・ガンバから、19世紀初頭のチェロに至る奏法と楽譜読解の歴史について。同声会賞、大学院アカンサス賞受賞。パリ・サティ音楽院在学中(2014-17)に、年に数回ずつアムステルダムへ赴き、A.ビルスマからJ.S.バッハの演奏に関するレッスンを受ける。

西澤 誠治 Seiji Nishizawa コントラバス



東京藝術大学卒業、及び大学院修了。コントラバスを林雄一、江口朝彦の各氏に、室内楽を巖本真理弦楽四重奏団に師事。東京シティ・フィルを経て読売日本交響楽団入団、首席奏者も務めた。現在、読響を定年退職しフリーランス。国内外のオーケストラに客演首席奏者として招かれている。また古楽にもたいへん造詣が深く、バッハ・コレギウム・ジャパン、オーケストラ・リベラ・クラシカなどに創立時より参加し、数々のコンサート、レコーディング、海外ツアーに参加している。

森本 英希 Hideki Morimoto フルート



和歌山県橋本市出身。京都市立芸術大学大学院研究科修士課程修了。フルート・リコーダー・篠笛等さまざまな笛を持ち替える稀有な奏者。テレマン室内オーケストラ、京都バロック楽器アンサンブル、アンサンブル・リュネット、現代音楽アンサンブルnext mushroom promotion等で幅広く活動している。2011年日本フルートコンベンションコンクール・アンサンブルアワード部門にて第1位受賞。また2023年11月には功績が認められ出身地の橋本市より文化功労賞を贈られた。ライブツイヒ・バッハ・フェスティバル、丹波の森国際音楽祭、韓国国際音楽祭、北京フルートフェスティバルなどに招聘されている。富山バッハオーケストラのオーケストラマネージャー。

曾根 麻矢子 Mayako Sone チェンバロ



(C)Yuji Hori

桐朋学園大学附属高校ピアノ科卒業。高校在学中にチェンバロと出会い、故鍋島元子に師事。1986年ブルージュ国際チェンバロ・コンクールに入賞。その後渡欧を重ね、スコット・ロスに指導を受ける。1991年エラート・レーベル初の日本人アーティストとしてCDデビュー。2003年からの全12回のJ.S.バッハ連続演奏会(浜離宮朝日ホール)に続き、2010年から全12回のF.クーブランとラモーのチェンバロ作品全曲演奏会(上野学園エオリアンホール)を行い、いずれも好評を博した。1996年「第6回出光音楽賞」をチェンバロ奏者として初めて受賞。1997年飛騨古川音楽大賞奨励賞を受賞。2021年春より、HAKUJU HALLを舞台に、バッハの主要作品を数年間にわたって演奏するコンサートシリーズをスタートさせた。使用チェンバロ：David Ley製作18世紀フレンチモデル